

いま問われる研究業績評価・・・応用物理と未来社会

日時 2017年3月17日(金) 13:00~17:00

会場 パシフィコ横浜
会議センター1F メインホール (MH)

参加費 無料 (事前登録不要)

日本の研究アウトプットが激減している。その理由の一つは研究費の減少だと聞く。若手研究者は論文至上主義にとらわれ長期的な研究に取り組めないらしい。本当だろうか。そもそも応用物理学者としての学術的そして産業的な研究貢献とは何か。主観的な意見をぶつけ合うだけでは不毛である。しっかりとデータを見て、分析しなければならない。そこで本シンポジウムでは、研究業績評価が急速に進んだ最近の日本の学術、科学技術の状況を把握して、応用物理と未来社会の発展につながる業績評価法を探りたい。

プログラム

13:00 開会の辞

河田 聡 (大阪大学工学研究科)

13:10 「科学研究の俯瞰・ベンチマークと未来予測

～戦略・ビジョンづくりの手がかりとして～

斎藤尚樹(文部科学省 科学技術・学術政策研究所)

13:50 「知っていそうで知らないデータによる学術評価

－何をどう数えるのか－

広瀬容子(株式会社ラピッツワイド)

14:30 「アイデアの実現につながる評価方法とは」

對馬哲平 (ソニー株式会社)

15:10 休憩 (20分)

15:30 総合討論

司会:河田 聡

パネラー:金丸正剛(応用物理学会副会長、産業技術総合研究所)、斎藤尚樹、広瀬容子、對馬哲平、波多野睦子(東京工業大学工学院)、松尾由賀利(法政大学理工学部)、原泰史(政策研究大学院大学 科学技術イノベーション政策研究センター)

16:45 閉会の辞

中野 義昭(東京大学大学院工学系研究科)

共 催 : 公益社団法人 応用物理学会

日本学術会議 総合工学委員会未来社会と応用物理分科会